

第44回広瀬川創生プラン策定推進協議会 議事録

- 日 時:令和5年3月17日(金曜日) 10:00~11:45
- 場 所:仙台市役所本庁舎2階 第2委員会室
- 出席委員:小祝 慶紀 会長、小田 隆史 会長代理、岩崎 雄一郎 委員、
大場 秀行 委員、佐々木 方明 委員、笹村 欣司 委員、
佐藤 奈緒子 委員、鈴木 典宏 委員、須田 敏光 委員、
豊嶋 純一 委員、野村 倫太郎 委員、日野口 巖 委員、
谷田貝 泰子 委員
- 欠席委員:大庭 克己 委員、多田 千佳 委員
- 事務局:建設局百年の杜推進部百年の杜推進課
- 内 容:
<次 第>
 1. 開 会
 2. 挨拶
 3. 会長選出
 4. 議 事
 - (1) 令和4年度重点事業の評価及び取組事業の報告について
 - (2) 令和5年度重点事業の設定及び取組事業の更新について
 - (3) 広瀬川ゴールドサポーターの認定について
 - (4) 広瀬川グリーンサポーターの認定の報告について
 5. そ の 他
第40回全国都市緑化仙台フェア 未来の杜せんだい2023の開催について
 6. 閉 会
- 要 旨:
 - 令和4年度重点事業の評価及び取組事業の報告について了承された。
 - 令和5年度重点事業の設定及び取組事業の更新について事務局案が了承された。
 - 広瀬川ゴールドサポーターの認定(1件)について協議会に意見聴取を行い
了承された。
 - 広瀬川グリーンサポーターの認定の更新(1件)の報告について了承された。

■ 議事詳細：

1. 開会

○司会（百年の杜推進課 熊谷課長）

ただいまより「第44回広瀬川創生プラン策定推進協議会」を開会する。本日、司会を務める百年の杜推進課長の熊谷である。

=配布資料の確認=

2. 挨拶

○司会（百年の杜推進課 熊谷課長）

はじめに、建設局長の千葉より挨拶申し上げます。

○千葉建設局長

本日は、お忙しい中、ご出席いただき誠に感謝する。本協議会は、昨年4月に委員の改選を行ってから初めての開催となるが、委員をお引き受けいただき、あらためて感謝申し上げます。

本市では、今年の4月26日から6月18日までの54日間、「全国都市緑化仙台フェア」という緑の祭典を行う予定である。「杜の都から始まる未来、みどりを舞台に人が輝く」をテーマに、青葉山公園追廻地区、西公園、その間に挟まれる広瀬川をメイン会場として開催予定であり、その他にも、定禅寺通、東部の津波被災地域、七北田公園などの会場も連携しながら、大規模なイベントを行う予定である。現在、青葉山公園などで準備を進めており、広瀬川については遊歩道、花壇、広場を整備している。また、川の水と触れ合えるような整備も行い、この機会を通して広瀬川の魅力を全国に発信したいと考えており、ぜひ皆様も期間中おいでいただければと思う。

本日は、コロナが落ち着いた以降の、令和5年度の事業内容なども説明させていただく予定であり、コロナで活動が少し縮小傾向となっていたが、今後はまたしっかりと事業を進め広瀬川の魅力を沢山の方々に伝えていきたいと考えており、ご助言をいただければ幸いです。

○司会（百年の杜推進課 熊谷課長）

続いて、本協議会は、令和4年4月に改選の委嘱を行ってから初めての開催となるため、改めて委員を紹介する。

■ 東北電力株式会社 宮城支店 広報担当部長

岩崎 雄一郎 委員

■ 仙台商工会議所 中小企業支援部 次長

大庭 克己 委員

本日は所用により欠席とのご連絡をいただいている。

■ 広瀬川1万人プロジェクト実行委員会 副委員長

大場 秀行 委員

- 東京大学大学院 総合文化研究科 准教授
小田 隆史 委員
- 東北工業大学 ライフデザイン学部 教授
小祝 慶紀 委員
- 仙台市片平市民センター・片平児童館 館長
佐々木 方明 委員
- ニッカウキスキー株式会社 仙台工場 理事工場長
笹村 欣司 委員
- なおコンサルティング 代表
佐藤 奈緒子 委員
- 宮城県仙台土木事務所 河川部 技術次長
鈴木 典宏 委員
- 公益財団法人 仙台観光国際協会 観光事業部長
須田 敏光 委員
- 東北大学大学院 農学研究科 准教授
多田 千佳 委員
本日は所用により欠席とのご連絡をいただいている。
- 特定非営利活動法人 都市デザインワークス せんだいセントラルパーク縁長
豊嶋 純一 委員
- 株式会社JTB 仙台支店 営業第一課
野村 倫太郎 委員
- 国土交通省東北地方整備局 仙台河川国道事務所 調査第一課長
日野口 巖 委員
- 特定非営利活動法人 水・環境ネット東北 事務局長
谷田貝 泰子 委員

本日、出席委員が全委員の過半数に達しているため、会議が成立していることを報告する。次に、仙台市側の出席者については、お手元の席次表をご覧ください。なお、本協議会の事務局は、建設局百年の杜推進部百年の杜推進課が務めさせていただく。

3. 会長選出

○司会（百年の杜推進課 熊谷課長）

引き続き、本協議会をまとめていただく会長の選出をお願いしたい。参考資料1の広瀬川創生プラン策定推進協議会設置要綱第5条第1項に基づき、会長は委員の中から互選により決めることとなっている。どなたか推薦等はあるか。

○豊嶋委員

前会長であり、経験と実績が豊富な、小祝委員に引き続きの会長をお願いしたい。

=一同異議なし=

=小祝委員了承=

○司会（百年の杜推進課 熊谷課長）

それでは、会長を小祝委員にお願いする。続いて、同じく要綱の第5条第3項に基づき、会長代理となる委員を小祝会長に指名いただきたい。

○小祝会長

前会長代理である小田委員を、引き続き会長代理に指名する。

=小田委員了承=

○司会（百年の杜推進課 熊谷課長）

それでは、会長代理を小田委員にお願いする。小祝会長、小田会長代理より挨拶をお願いしたい。

○小祝会長

この度、会長を引き続き拝命した東北工業大学の小祝である。皆様のご協力を得て、ふるさと、仙台の川である広瀬川をきれいにし、更に郷土の誇りとしていく一翼を担えたらと考えているので、皆様のご協力をお願いしたい。

○小田会長代理

会長代理を務める小田である。私事ではあるが、昨年10月1日付けで9年半務めた宮城教育大学から東京大学へ転任し、東北を少し離れたところから仙台を見つめ果たせる役割もあるかと思い、引き続き、委員を務めさせていただくこととなった。

東京大学に転任した一つの思いとして、震災の復興や防災の面でこれまで川に関わってきたが、震災から時間が経過している中で、次の若い世代の方々と東北を少し離れたところから見つめ直すということがある。また、所属先の地理学教室を通じて多くの学生を東北へ実習で連れてくる機会も増えると思うので、その機会に広瀬川や仙台の魅力を学生に伝える活動をしていきたいと考えている。引き続き、よろしくをお願いしたい。

4. 議事

○司会（百年の杜推進課 熊谷課長）

以降の議事の進行は、要綱第6条に基づき小祝会長にお願いする。

○小祝会長

まず、会議の公開または非公開について確認したい。非公開となる事案がないので、今回の協議会は公開としてよろしいか。

=一同了承=

次に議事署名は五十音順で岩崎委員にお願いしたいが、よろしいか。

=一同了承=

=岩崎委員了承=

それでは次第に沿って進めさせていただく。議事（１）「令和４年度重点事業の評価及び取組事業の報告について」、事務局より説明をお願いしたい。

○事務局（広瀬川創生係 稲垣係長）

資料１、資料２に沿って説明。

○小祝会長

折角の機会なので、事業に関わった委員から意見・感想をいただきたいと思う。まず、重点事業１の広瀬川１万人プロジェクトについて、大場委員に意見を伺いたい。

○大場委員

10年近く清掃活動に参加しているが、当初と比べると大きなゴミがだいぶ減ってきている。我々の活動は年１～２回程度だが、ゴミを拾い常にきれいにしておくことで、ゴミを捨てる側も捨てづらくなっているのでは、と考えている。

また、私が秋に担当している牛越橋会場は、平成27年関東・東北豪雨の際にグラウンド等が被害を受け、青葉区公園課が雑木や雑木林などをきれいに整備していただいた。そういった、木や藪がある見えづらい場所には、冷蔵庫や自転車などのゴミが捨てられやすいが、整備のおかげでゴミが無くなった。昨年、私が春に荒浜海岸会場で清掃活動に参加した際、藪の中に食器棚が捨ててあり、やはり見えない場所があるとゴミが捨てられると感じたため、できるだけそういった場所は無くしていく必要があると感じている。

○小祝会長

広瀬川1万人プロジェクト実行委員会も設立20周年を迎え、今後も引き続きよろしくお願
いしたい。

続いて、重点事業2のアイラブ広瀬川プロジェクトである「広瀬川自然体験学習」につい
て、笹村委員に意見を伺いたい。

○笹村委員

元々は作並かっぱ祭りに協力していたが、コロナの影響もあり、去年は広瀬川自然体験学
習に協力させていただいた。当日は非常に天気にも恵まれ、親子でご来場いただき非常に良
かったと感じている。

新川は非常にきれいな川であり、我々もそのきれいな水をいただいてウイスキーを作っ
ており、コロナで中断はあったものの、仙台市の皆様に我々が得ている自然の恵みを還元で
きる良い機会であると感じている。

○小祝会長

参加の80%以上が満足しているイベントであり、ぜひ引き続きよろしくお願
いしたい。

続いて、重点事業2のアイラブ広瀬川プロジェクトである「Art Standing in SENDAI」に
ついて、鈴木委員から意見を伺いたい。

○鈴木委員

河川構造物に絵を描くということで、設備の維持管理上、絵でひびが見えなくなっ
てしま
うなどの理由から1年間限定で、また、使う色も周りの景色に配慮いただき、皆様に喜んで
いただける絵が完成し良かったと感じている。設備の維持管理や絵が色褪せるなどの面から
1年間限定で実施できた取り組みかと思うが、この場所に限らず、他の場所でもこういった
取り組みがあれば、協議をいただき、できる範囲のことはしていきたい。

○小祝会長

様々な課題を乗り越えて実現いただき感謝する。今後ともよろしくお願
いしたい。

続いて、令和4年度の取組事業である「地誌学 学外実習連携事業」について、小田会長
代理から意見を伺いたい。

○小田会長代理

本取り組みは、前回の協議会で小祝会長が行っていた東北工業大学の連携事業がきっかけとなっており、非常勤講師を務めていた東北学院大学の「地誌学」という授業とコラボレーションし、西大立目 祥子氏の協力を得たり、佐藤委員にもInstagramで情報発信をしていただいたりしながら、実現した。

東北学院大学の土樋キャンパスから広瀬川沿いを歩き大橋へ至るコースであったが、コロナの影響で、長らくサークル活動の自粛やオンライン授業を余儀なくされていた大学3・4年生がまち歩きをしながら、身近な歴史や自然を知ることができ、非常に有意義な活動であったと思う。

○小祝会長

今後はぜひ、東京の学生にも参加いただければと思う。

続いて、令和4年度の取組事業である「水辺と、船上で乾杯」について、豊嶋委員から意見を伺いたい。

○豊嶋委員

今回は活動実績が豊富な団体と連携し、本活動を実施できた。また、乾杯の発声は、地元の金融機関に行っていただくなど企業にも関わっていただき、とても良い形でできたと感じている。スーツ姿の会社員その他、会場の演出には宮城学院女子大学の学生にも参加いただき、様々な年代の方に参加いただけたと感じている。

○小祝会長

今後も引き続きよろしくお願ひしたい。

続いて、令和4年度の取組事業である「仙台市公式 #広瀬川 Instagramに掲載する情報収集と更新」について、佐藤委員から意見を伺いたい。

○佐藤委員

コロナ禍でなかなか市民が集まる機会が無い中で、情報発信をしながら市民交流の補完を行うということでInstagramの活動を始めた。広瀬川に関わる方々の営み分かるような写真を掲載したいと考え、横断的に上流から下流まで関連団体の活動を取り上げながら自分事として興味を持ってもらい、それがフォロワー数の増加に繋がればと思い、活動を行ってきた。

少し変わったところでは、取組事業一覧に掲載されていない活動団体も意識した。例えば、まち歩きをしながら仙台の歴史を教えていただいた西公園の「仙台市蒸気機関車C601保存会」、どんと祭の「仙臺伝統裸参り保存会」、「一般社団法人貞山運河ネット」など、広瀬川流域の団体の皆様にお声がけをして、その活動をInstagramに掲載した。Instagramはその性格上、拡散性がないため知ってもらうという工夫が非常に重要であり、活動報告を掲載することで興味を持ってもらい、また掲載することで見ていただけると考えている。

やってみて分かったこととして、少し年齢層が高い活動団体は、ホームページは持っているが、どうやったらそれ以外の媒体を使えるかという悩みを抱えているということがあった。仙台市の広瀬川Instagramに記事を掲載すると伝えると、喜んでご協力いただけたので、来年度も引き続き、横断的な情報の共有がなされれば非常におもしろいものになるのではないかと思う。

○小祝会長

見えていなかった活動が見えるようになるということは、非常に重要だと思う。今後も見える化を行うためInstagramは重要になってくると思われるため、引き続きよろしく願いしたい。

続いて、令和4年度の取組事業である「広瀬川界限ぶらり散歩」について、佐々木委員から意見を伺いたい。

○佐々木委員

コロナ禍で、昨年度は参加人数を少なくして実施していたが、今年度は参加人数を増やして実施した。2～3倍の倍率で抽選を行い、参加者の中には数年応募してやっと参加できたという方もいらしかった。参加者からは、「仙台市に住んでいながら、広瀬川の景観や魅力が知らなかったのが参加して良かった」、「地質や周辺の歴史などを含めた説明がゆっくり歩く会の案内でなされ、満足した」とご回答をいただいた。今年度は米ヶ袋コースを追加して2コースで実施したが、広瀬川を逆コースで行くとまた違った景観で素敵だなと感じられた。

また、当年度は若い方の参加が増えており、来年度は緑化フェアもあるため、これまで以上に人気の事業になるのではないかと考えている。今後も広瀬川の魅力を発信していきたいと思う。

○小祝会長

今後も、引き続きよろしくお願ひしたい。

他に何か意見はあるか。

無いようであれば、「令和4年度重点事業の評価及び取組事業の報告について」は、これで承認いただいたということにする。

引き続き、議事（2）「令和5年度重点事業の設定及び取組事業の更新について」、事務局より説明をお願ひしたい。

○事務局（広瀬川創生係 稲垣係長）

資料3、資料4に沿って説明。

○小祝会長

ただいまの事務局からの説明について何か意見のある委員はいるか。

○谷田貝委員

資料4について、「広瀬川で遊ぼう」や「作並かつぱ祭り」は資料には記載されているが、実施の予定は無いという理解でよいか。

○事務局（広瀬川創生係 稲垣係長）

実行委員会から実施するという連絡はないが、一応資料には掲載している。令和6年度以降については実行委員会に話を聞き、どうするか決めていきたいと考えている。

○小祝会長

他に何か意見はあるか。

無いようであれば、「令和5年度重点事業の設定及び取組事業の更新について」は、これで承認いただいたということにする。

来年度の取組事業を担当する委員もいるかと思うが、よろしくお願ひしたい。

引き続き、議事（3）「広瀬川ゴールドサポーターの認定について」、事務局より説明をお願ひしたい。

○事務局（広瀬川創生係 稲垣係長）

資料5に沿って説明。

○小祝会長

広瀬川ゴールドサポーターの認定に当たっては当協議会の意見聴取が必要となるが、ただいまの事務局からの説明について何か意見のある委員はいるか。

無いようであれば、「広瀬川ゴールドサポーターの認定について」は、これで承認いただいたということにする。

引き続き、議事（４）「広瀬川グリーンサポーターの認定の報告について」、事務局より説明をお願いしたい。

○事務局（広瀬川創生係 稲垣係長）

資料6に沿って説明。

○小祝会長

ただいまの事務局からの説明について何か意見のある委員はいるか。

無いようであれば、「広瀬川グリーンサポーターの認定の報告について」は、これで承認いただいたということにする。

以上、議事についてはここまでとする。

5. その他

引き続き、5.その他「第40回全国都市緑化仙台フェア 未来の杜せんだい2023の開催について」、全国都市緑化フェア推進室と事務局より説明をお願いしたい。

○全国都市緑化フェア推進室（総務企画担当 千代谷課長）、事務局（広瀬川創生係 稲垣係長）

資料7に沿って説明。

○小祝会長

ただいまの全国都市緑化フェア推進室と事務局からの説明について何か意見のある委員はいるか。

無いようであれば、「第40回全国都市緑化仙台フェア 未来の杜せんだい2023の開催について」は、これで終了する。

引き続き、その他の情報提供として、「広瀬川環境導水の試験通水実施について」、日野口委員より説明をお願いしたい。

○日野口委員

お手元の資料は、平成16年に完成した水路及び環境導水の関連施設を示している。最後に稼働したのは平成22年で、約12年半前に導水をし、東日本大震災等の影響もあり休止していたものである。元々、本設備を設置した理由は、広瀬川の魚の斃死など^{へいし}渇水時に役立てるための一つの選択肢として準備したものである。約12年半実施していなかったもので、先週の3月10日に機能が劣化していないかの確認を兼ねて、試験を実施した。10時00分と13時30分に経路を変えて2回実施し、ポンプ場を動かして導水可能かどうか、また、ポンプ場を使わず通常の水路に導水可能かという、2つの系統で確認した。結論を申し上げますと、導水は可能で、2ページ目の①～④の地点で流量観測を行ってみた。①の八幡東は^{へいし}策川に入る直前の箇所、策川を跨いだ②の西多賀を経由して、広瀬川に合流する③の門前で流量観測を行っている。広瀬川の左岸から対岸を撮影した写真が右側にあるが、通常は空の水路となっており、1枚目の「初期導水」の写真ではコンクリートが濡れている様子が見え、2枚目の「導水中」の写真では白波が立ち流量が増えている様子が見える。なお、2系統での確認というのは、3枚目の「木流堀用水路」と「木流堀排水路」の2つで確認したということである。

資料下に記載している流量は通水前、通水中、通水後を示しており、省略となっている部分は夕方になってきたため観測を止めたということを表している。例えば、門前では、導水前は流量ゼロであったが、流量が多くなってくると0.3m³/s程度流すことができた。導水を止めると徐々に減っていき、最終的には0.1m³/sとなっている。また、送る水が無くなれば流量はゼロとなり、こうした内容を確認することができた。参考までに広瀬橋の流量も観測しているが、当日は雪解けの影響で流量が多く、今回の導水が影響する規模ではないと考え、参考扱いにしている。今回試験が順調にできたため、渇水時に活用する等、広瀬川にとって良い環境を作っていきたいと考えている。

○事務局（広瀬川創生係 稲垣係長）

事務局より補足として、本事業は広瀬川創生プランの取組事業となっている。資料2の令和4年度取組事業一覧ではNo. 39に、資料4の令和5年度取組事業一覧ではNo. 38に、それぞれ記載されている。

○小祝会長

ただいまの情報提供について何か確認したい委員はいるか。

○豊嶋委員

こういった取り組みがあるということを知った。生物のための素晴らしい取り組みで、ぜひ積極的に発信してもらいたい。最近の言葉で言うと、グリーンインフラの取り組みの1つだと思うので、治水の面だけではなく生物環境の取り組みとして、新しい言葉で分かりやすく伝えていけるのではないかなと思う。今後とも、こういった情報を共有していただきたい。

○谷田貝委員

私が事務局長を務める、特定非営利活動法人 水・環境ネット東北は河川協力団体のため、意見交換会で毎年仙台河川国道事務所に行っているが、いつも渇水の影響で広瀬川の水が減っているという話を伺っている。この試験通水で水が流れるという話を聞いて、今年は渇水時に効果があると良いなと思った。1点、今まで約12年半使用されていなかった理由をお伺いしたい。

○日野口委員

大きく2つの理由がある。1つは、水源の問題である。渇水時には、広瀬川だけではなく、名取川も渇水となり、供給する水の源をどこで考えるかという問題がある。今回の例で言うと名取川の上流には釜房ダムがあり、平常時から弾力的管理として少し余裕がある分だけ水を貯めておくことで、課題を解消した。2つ目は、土地改良区の方々に同意を得るのに時間を要したことがある。我々が関わる河川行政においては水利権という権利関係があり、この環境用水にご協力いただくまでに時間を要したが、今回は土地改良区の方々との関係も良好で、実施に至った。

また、グリーンインフラの取り組みとして評価いただくことに感謝。総じて、皆さんできることをどんどんやっていこうという状況になってきているということもあるので、これからも継続できるよう努力していきたい。

○小祝会長

豊嶋委員からも貴重な意見があったので、参考にしていただければと思う。

引き続き、その他の情報提供として、「東北電力地域づくり支援制度 東北・新潟の活性化応援プログラム2023」について、岩崎委員より説明をお願いしたい。

○岩崎委員

東北電力では6年ほど前から地域づくりの支援制度として活性化応援プログラムを行っており、地域コミュニティの活性化や交流人口の拡大を行っている、自治体と個人を除く、東北6県と新潟県の団体を対象に助成金を交付している。現在、燃料費の高騰に伴う電気料金の値上げなど様々な動きがある中で、今年も実施するべきかという議論はあったものの、一度やめてしまうと二度と復活することはできないという判断で、金額は落とすものの実施することとなった。

これまで43団体への支援実績があり、昨年は62団体の応募があり、その中から、パンフレットの最後のページにある7団体が選ばれている。特別助成団体としては、子育て世代を支援する冊子を年4回ほど発行されている「一般社団法人子育てプラットフォーム MaRU」が選ばれており、その他助成団体としては、地域交流拡大の活動を行っている「下北ジオパークガイドの会」なども選ばれている。3月16日から受付を開始しており、4月23日の締め切りまで、東北電力本店の地域共生ユニットで受付を行っている。関連団体等で該当があれば、ご紹介いただければと思う。

○小祝会長

ただいまの情報提供について何か確認したい委員はいるか。

それでは、5.その他については、以上とする。

6.閉会

○小祝会長

これまでの委員からの意見・質問等について、事務局でまとめていただき議事録にて確認することとする。

本日の議事はこれで終了とし、マイクを事務局にお返しする。

○司会（百年の杜推進課 熊谷課長）

議事の進行に感謝申し上げます。

以上をもちまして、「第44回広瀬川創生プラン策定推進協議会」の一切を終了する。

以上

この議事録について、会議の内容に相違ないことを認めます。

令和 年 月 日

議事録署名人

広瀬川創生プラン策定推進協議会 会長 _____ (印)

委員 _____ (印)